

持続可能な地域社会をつくるため これからのごみ処理のあり方を考えよう

大量生産・大量消費・大量廃棄社会の中で、ごみの焼却・埋め立ては環境に大きな負荷を与えてきました。またごみ処理費用には莫大な税金が投入されており、小平市の2012年度予算では約23億8000万円が計上されています。ごみ問題は生活に直結しすべての市民に関わる問題であり、一人ひとりが自分の問題として考え行動することが求められています。

**小平・生活者ネットワーク
ニュースNo.114**

2013年1月20日
発行責任者／打木香澄

〒187-0045
小平市学園西町2-15-2 CB一橋学園
TEL&FAX 042-342-4494
E-mail kodaira@seikatsusha.net
http://kodaira.seikatsusha.me/

ごみ処理施設の更新は 待たなしの状況

小平市・武蔵村山市・東和市の可燃、不燃、粗大ごみは中島町にある小平・村山大和衛生組合で共同処理されています。ここでは施設の老朽化が喫緊の課題となっており、2021年の焼却炉の建て替えの時期まで10年を切っています。

また資源ごみの処理をしている小川東町のリサイクルセンターも処理能力が限界にきており、3市共同ゴミ資源化施設（プラスチックなどの資源物の共同処理場）の建設計画は焼却炉の規模の決定にも大きく関わってくるものです。現在リサイクルされずに焼却している食品の袋などの軟質プラスチックをどうするかも含めて決めていかなければなりません。いずれもこれからのごみ処理計画づくりに大きな影響を及ぼすものです。

2Rプロジェクト

発生抑制をすすめる

「ごみ問題を考える上で、プラスチックと生ごみの処理は大変悩ましい問題です。容器包装リサイクル法によってプラスチックのリサイクルは進んだものの発生抑制につながら

ず、ごみそのものは減っていません。またほとんどが税金で賄われているリサイクル費用が増大することも課題です。事業者が生産から廃棄まで責任を持つ拡大生産者責任を容器包装リサイクル法に明確に位置付け、リユース、リデュースの2Rを促進するためのしくみづくりが急がれます。生活者ネットワークではこれまでも法改正に向けて意見書提出のための署名活動など市民団体とも連携しながら活動してきました。今後も実現に向け働きかけを続けます。

生ごみについては、市の食物資源循環モデル事業が3年目を迎えて2013年度より本格実施の予定です。ごみとして燃やさずに資源として活用することでごみの減量に大きくつながります。それぞれのライフスタイルに合わせて市民一人ひとりが実践していくことが大切です。

新たなごみ処理基本計画は多くの市民の声を 反映したものに

現在、市では、今後10年間のごみの減量や処理についての方向性を示す「(仮称)第三次ごみ処理基本計画」に着手しています。策定にあたっては、焼却場の建て替えや容器包装プラスチックの処理、ごみの有料化など難しい問題を抱えており、市民全体での議論が欠かせません。計画の内容は、ごみ減量等推進審議会で議論され、2013年度中に策定予定です。ごみ処理施設の近隣住民だけでなく、すべての市民に直接関わる問題であり、市には、十分な情報公開と説明責任が求められています。

生活者ネットワークではより広い層の参加を促すよう提案しています。持続可能な地域を実現するため、今後の計画づくりにぜひ注目してください。



老朽化が進み、メンテナンスをしながら延命化してきたが、建て替え計画の決定期限が迫っている焼却炉